

今年もそろそろ水虫の季節です。昨年も来院されたAさん、今年もまたお出でになりました。

「水虫治療は最低でも2～3ヶ月はかかりますよ、表面上キレイになり痒みもなくなった時からさらにダメ押し」と私。昨年、Aさんは症状がなくなった時点でもう治ったと思われたようです。確かに皮疹もなく痒みも無いところに薬をまだ塗るなど人情からして納得しかねます。

しかし、水虫(白癬菌:カビ)はなかなか手強いのです。勢いがある時は菌糸の状態です。どんどん増殖しますが、薬などで発育が阻害されてくると胞子の状態でじっと耐えています。この段階では一見治癒したようにみえるのですが、温度(体温)と湿度(汗)というカビが生える条件が整うとまたぞろ菌糸を出して増えて来ます。

昔から水虫の薬を発明したらノーベル賞だなんて云われますが、今や水虫の薬ではとても賞はもらえません。既に極めて優秀な外用剤や内服薬が開発されているから、あとは継続して塗る根気が必要とされるだけです。

塗り方は一日のうちで足が靴下に包まれ靴の中でムレてしまう、カビが一番勢いをもつ昼間に薬がついているようにすべきです。すなわち、毎朝靴下をはく前に薬を塗布すれば靴下にも靴にも少しは薬がついて一石二鳥です。これを習慣化して夏なら約2～3ヶ月外用して頂ければきっとよい結果が得られることでしょう。まさに、もう治ったと思った時から2ヶ月塗ってダメ押しを!。(岩田皮膚科院長)

4月会員登録状況

協力会員	46人
利用会員	60人
賛助会員	147人
計	253人

4月活動状況

在宅活動件数	33件
"活動人数	33人
"活動時間	522.5時間
ミニデイサービス利用者数	32人
移送サービス利用件数	1件

6月の予定

1日(火)	会報「まごころ」発行
2日(水)	コーディネーター会議
3日(木)	ミニデイサービス(場所・保育園) -宮保ボランティア 宮田、藤葉、田中
7日(月)	定例会、勉強会(疥癬について)
9日(水)	運営委員会
10日(木)	ミニデイサービス(場所・事務所) -宮保ボランティア 岩田、大嶋
12日(土)	NPO勉強会 (名古屋)
14日(月)	-宮保ボランティア 鈴木、平子、小出
16日(水)	コーディネーター会議
17日(木)	ミニデイサービス(場所・保育園) -宮保ボランティア 野田、築城、夏田
21日(月)	-宮保ボランティア 谷、安藤、小木曾
24日(木)	ミニデイサービス(場所・事務所) -宮保ボランティア 岩田、城田、小出
28日(月)	-宮保ボランティア 小島和、川崎、倉知
30日(水)	運営委員会



移送サービス始めました。ご利用下さい!!

〜〜〜リフトカー及び乗用車による送迎です  
車椅子の方もどうぞ〜〜

対象・体が弱いお年寄りの方や障害のある方  
当会利用会員さんはすべて対象です  
会員外の方は利用会員登録が必要です

利用内容・通院等外出時に車による送迎サービス

利用料・◇一宮市内一円  
片道 700円(運転料500円+お送料200円)  
◇走行時間30分以上の場合  
片道 1,200円(運転料1,000円+お送料200円)と  
+(ガソリン代1キロ15円×  
利用者宅から目的地までの走行距離)



但し、遠方の目的地で車だけ帰る場合は目的地から利用者宅までの走行距離のガソリン代1キロ15円が必要

◇待ち料金(30分以上待つ場合に必要)  
30分毎350円

◇移送サービス保険料 530円(平成11年度の場合)

福祉用具リサイクル情報内案

【譲りたい情報】

- ◆電動車椅子1台
- ◆車椅子装着用テーブル
- ◆手すり(洋式トイレ用)
- ◆歩行器
- ◆老人車1台(新品)

【譲りました情報】

- ◆車椅子1台
- ◆障害児用車椅子1台

7月の定例会は

7月5日(月) 午前9時45分~午後3時  
◆ケア活動事務手続き 9時45分~10時15分事務所  
◆全体定例会 10時15分~12時00分 "  
◆研修会 講義 13時00分~15時00分 "  
講師 元一宮市立中央看護専門学校副校長 丸山月江氏 地域在宅介護について  
この日はケアはお休みです  
利用会員さんよろしくお願ひ致します。

みんなの広場

大きな課題

「さっきから分かり切ったようにしゃべっているが、あんたには俺の気持ちなんか分からない!!自分の親を施設に連れて行く気持ちがどんなものか。あんたはやっぱり他人だから」さらに興奮した話が続いた。

「じゃー自分の親を施設に連れていけるかね?」

これは痴呆の母親を初めて特別養護老人ホームのショートステイに1週間お世話になった息子さんのせりふである。

行きたがらない母親には、施設がボランティアをほしがっていて、しっかりお手伝いをしてはどうかと連れ出したとのことだった。

やはり施設への偏見は根が深い。

その息子さんがあまりにも悪いことをしたように言われるので、それはそんなに責めなくてもいいのではないか。

良い施設にお世話になることはある意味では痴呆の介護が必要な方のためであること、又一方で家族がつぶれない為にはこれも一つの方法なのだから、と慰める為に言った言葉だったが、逆に相手の気持ちを傷つける結果になってしまった。

このやり取りで思い出した事がある。

「デイサービスに行くのがいやな父であることは分かっていました。その父が迎えの車に黙って乗って行く後ろ姿に、涙が出て仕方ありませんでした。でも、行かなくていいとは言えませんでした。私は本当に疲れていたから。でも、亡くなった今でも思い出すと胸が痛い」と言われた娘さん。

このお二人の子供さんの思いは、多分誰でも普通に経験することだと思ふ。私も当事者で初めての時はきっと狼狽するであろう。

建前と本音が入り交じって理屈どおりにはいかないのが介護である。

どんなに発想の転換をしても、充実した介護施策があっても埋められないものは必ずあるものです。

埋めることが出来るとしたらそれは何でしょう。大きな課題である。(協力会員 W・H)

感謝

この度、会へご寄付をいただきました。W様、K様、M様、M様、ありがとうございました。大切に使用させていただきます。

リサイクル福祉用具  
お役に立っています  
感謝申し上げます。福祉用具のリサイクルに用具を提供下さいました皆様、図書館でお役に